

抄 録

第18回山口県腎臓病研究会

日 時：平成24年3月1日（木）18：30～

場 所：山口グランドホテル

共 催：山口県腎臓病研究会

興和創薬株式会社

Session 1（18：30～18：40）

「心腎連関におけるスタチンの役割」

興和創薬株式会社 山口営業所 竹田 哲

Session 2（18：40～19：10）

座長 山口大学大学院医学系研究科 泌尿器学分野

土田昌弘 先生

1. 軽鎖沈着症に伴うネフローゼ症候群の1例

総合病院社会保険徳山中央病院

腎総合医療センター

○赤尾淳平, 小林圭太, 矢野誠司, 荒巻和伸,

三井 博, 那須誉人, 林田重昭

67歳女性. 1ヵ月前から下腿浮腫を認め, 近医より紹介受診. ネフローゼ症候群を認め, 精査のため腎生検を施行. 腎生検では, メサングウムに好酸性物質の沈着を認めたが, コンゴレッド染色では陰性. 蛍光抗体法では, lambda chainの沈着を認めた. 電顕では, 径18nmの細繊維の沈着をメサングウムに認めた. 骨髓生検では, 軽度の形質細胞増加(3.8%)を認めた. 免疫グロブリン遊離L鎖 κ/λ 比は, 0.059であった. 軽鎖沈着症に対して, ボルテゾミド・デキサメサゾン療法を3コース施行したがネフローゼ症候群は改善しなかった.

2. リツキシマブ投与により寛解導入し得た難治性ネフローゼ症候群の1女兒例

山口大学大学院医学系研究科 小児科学分野

○水谷 誠, 東 良紘, 市村卓也, 木村 献,

橘高節明, 長谷川俊史, 市山高志

【はじめに】リツキシマブは, B細胞の表面に発現するCD20分子に対するモノクローナル抗体であり, 難治性ネフローゼ症候群に対する有効性が報告されている. 我々はステロイド抵抗性ネフローゼ症候群(微小変化型)症例に対し, リツキシマブを投与し有効と思われたので報告する.

【症例】7歳女兒. 2011年1月にネフローゼ症候群を発症. ステロイド抵抗性だったため, ステロイドパルスを6クール施行し, CsA, ミゾリピンを併用するも寛解に至らなかった. 4月に血漿交換を施行し完全寛解となったが, 2週間で再燃した. ステロイドパルス1クールで寛解に至らず, MMFを開始した. シクロスポリン+MMFを継続, PSLは漸減し, ACE阻害剤, アンジオテンシンII受容体拮抗薬, 抗血小板薬, 高脂血症用剤を併用した. 尿蛋白は減少傾向であったが, 不完全寛解(尿蛋白/Cr比2~4)であった. 10月, 完全寛解を目指し, ステロイド・ミニパルス1クール施行後, リツキシマブを投与した. 以降, 尿蛋白/Cr比0.5~2と改善し退院. 11月には一時完全寛解となった. その後感冒を繰り返し再発しており, 現在不完全寛解の状態を外來フォロー継続中である.

なお, 腎生検は2月・10月に施行しており, 組織型はいずれも微小変化型だった.

【まとめ】リツキシマブ投与により一時的に完全寛解へ導入することができた. また血漿交換でも寛解しており, 本症例の病態にB細胞やB細胞から産生される液性因子(nephrotic factor)が関与している可能性が示唆された.

3. ニューモシスチス肺炎を併発した成人発症の紫斑病性腎炎の1例

山口大学大学院医学系研究科 泌尿器科学分野,
山口大学大学院医学系研究科 皮膚科学分野¹⁾

○永田雄大, 廣吉俊弥, 藤川公樹, 内山浩一,
土田昌弘, 松山豪泰, 浪速研一郎¹⁾,
武藤正彦¹⁾

症例は48歳男性。2010年11月7日に感冒症状, 足関節痛, 紫斑にて当院皮膚科を受診。腎機能障害, 蛋白尿を認め当科紹介受診となった。腎生検にて紫斑病性腎炎と診断。ステロイド開始も蛋白尿は悪化。ステロイドパルス療法2コース後, シクロホスファミドの投与を開始した。12月22日CMV-Ag陽性のためバルガンシクロピルの投与を開始。Creaが7.14mg/dlまで上昇し計5回の血液透析を行った。その後腎機能, 蛋白尿は改善し3月5日退院した。4月4日 β -DグルカンおよびCRPが上昇。CTで肺炎像を認め, 真菌性肺炎と診断。ポリコナゾール, アムホテリシンBの投与開始も β -Dグルカンはさらに上昇。ニューモシスチス肺炎を疑いST合剤の投与を開始した。確定診断のため胸腔鏡下肺生検を行ったが病理組織学的にはニューモシスチス肺炎は確定できなかった。ST合剤投与により β -Dグルカン, 炎症所見は改善。現在治療開始後14ヵ月目で, Crea1.85mg/dl, 1日尿蛋白定量0.6gで外来にてステロイド投与中である。

Session 3 (19:10~19:40)

座長 山口大学大学院医学系研究科 器官病態内科学
池上直慶 先生

4. 感冒薬内服後の無酸素運動で発症した急性腎不全の1例

済生会山口総合病院 腎臓科

○伊藤誓悟, 澁谷正樹, 今井 剛

【症例】17歳, 男子高校生。【主訴】両腰背部痛・悪心・嘔吐。【現病歴】発症2, 3ヵ月前より運動時倦怠感を自覚, 発症5日前より感冒症状に対し市販薬を服用していた。体育祭の短距離走後から右側腹

部痛・嘔気出現, 近医にて熱中症の診断で対症療法を行うも改善せず, 第3病日にBUN35.5mg/dl, 血清Cr5.12mg/dlが判明, 当院紹介となった。【既往歴】若年性関節リウマチ, 喘息。【経過】入院時CK正常, 尿酸9.1mg/dlであった。補液のみで, 第5病日より一日尿量3000ml以上となり, 血清Crも入院時をピークとして, 第7病日に2.12mg/dlまで改善した。同日に造影CT施行, 翌日のDelayed CTでは特徴的な楔形造影剤残存を認めた。第10病日に退院となった。第29病日の退院後外来では血清Cr1.00mg/dl, 尿酸3.1mg/dlであった。【考察】無酸素運動後に発症した急性腎不全の症例を経験した。初発例であり, 感染や薬剤が誘因となった可能性も否定できなかった。観察しえた期間中では低尿酸血症を認めず, 特徴的な画像所見を呈したことが診断の一助となった。

5. 乳児期発症慢性腎不全透析導入後に判明した睡眠時無呼吸症候群

岩国医療センター 小児科,

岩国医療センター 循環器内科¹⁾,

岩国医療センター 腎臓内科²⁾

○宮原大輔, 宮井貴之, 守分 正,

田中屋真知子¹⁾, 木原隆司²⁾

22歳男性。出生時より腎低形成による非乏尿性腎不全, 透析・腎移植を拒否し続けていた。22歳時に食欲低下, 低Na血症, 浮腫, 尿量低下を認め入院, 絶食, 輸液, 利尿薬投与等を行うも浮腫の増悪, 肺水腫を認め, 入院21日目に本人の希望により透析導入した。透析導入後1ヵ月頃から睡眠時のSpO₂低下を認め, 鼾, 無呼吸, 日中の眠気を伴った。日中の眠気は透析導入前より自覚していた。ポリソムノグラフィ検査で総睡眠時間371.5時間に低呼吸327回, 無呼吸2回, AHI (apnea hypopnea index) 53.1, 最小SpO₂値81%であった。nasal CPAPによりAHI 2となり, 日中の眠気も改善した。末期腎不全患者では睡眠呼吸障害の頻度が高く, 原因として, 尿毒症, 代謝性アシドーシスなどが呼吸制御を不安定にする可能性, 透析導入後には透析間の水分貯留が上気道に浮腫として影響する可能性が指摘されている。本症例は元来末期腎不全による睡眠呼吸障害が存在し, 透析導入により顕在化した可能性が考えられた。

6. 当院における腎移植の現況

山口大学大学院医学系研究科 泌尿器科学分野

○廣吉俊弥, 藤川公樹, 内山浩二, 土田昌弘,
松山豪泰

腎移植は末期腎不全の腎代替療法で最も優れた治療法であり, 近年免疫抑制剤の進歩によりその成績は飛躍的に向上している. 当科では1971年から2011年末までに191例の腎移植を施行してきた. 今回我々は2001年から2010年までの10年間の生体腎移植の成績の検討を行った. 対象は2001年1月から2010年12月までに当科において行った生体腎移植80例で男性48名, 女性32名. そのうち血液型不適合が25例, 非血縁間が35例, Preemptiveが14例であった. 免

疫抑制剤はTacrolimus, Mycophenolate mofetil, methylprednisolon, 2005年11月よりbasiliximabを追加し, 2008年11月より代謝拮抗薬をMycophenolate mofetilとMizoribineの併用を開始している. これらの80例の患者背景, 生存率, 生着率, 術後合併症等について検討したので, 若干の文献的考察を含めて報告する.

特別講演 (19:40~20:40)

座長 山口大学大学院医学系研究科 泌尿器科学分野
教授 松山豪泰 先生

「小児腎移植の現状と今後の課題」

東邦大学医学部 小児腎臓学講座

教授 宍戸清一郎 先生